

FUREAI NEWS

アクアリウムさがみはら情報誌

Vol.04



300万人を超える“笑顔”

相模川ふれあい科学館アクアリウムさがみはら
館長 坂野 浩一

平成29年度は、開館30周年の節目の年にあたりました。

展示固定水槽の見直しやご案内サインなどの改善を行い、夏の特別企画展では人気のカピバラをはじめ、お客様に“ふれあい体験”を楽しんでいただきました。11月は、私ども(株)江ノ島マリンコーポレーションの新江ノ島水族館とコラボした「タッチング水槽」「クラゲ水槽」「ワークショップ」など30周年記念イベントを行いました。おかげさまで、平成29年度の年間入館者数は、開館以来、初めて21万人を超えることができました。

平成30年度早々には昭和62年開館以降の入館者数が300万人を突破するメモリアルイヤーとなりました。現在でも親子三代にわたってご利用されている市民の皆様が大勢いらしゃいます。当施設は、“日常的なカジュアル水族館”として相模川を中心とした生き物たちに親しめる、適度な広さの水族館と公園で構成された施設として、市民の皆様のご生活サイクルの一部になれば良いと願っております。

ご来館されたお客様が“笑顔”になれることをスタッフ一同の目標として、これからも新たな挑戦をしていきたいと思っております。



開館30周年を むかえて

平成29年度は「開館30周年」をむかえ、節目の年となりました。30周年を記念した展示更新やイベントを開催し、多くのお客様に「開館30周年」を周知すると共に、祝う事が出来ました。

当館は昭和62年11月に、相模川の自然に親しみ、自然を守り育てる心を育み、市民文化の向上に寄与する施設として開館し、今では親子3世代にわたりご来館頂いています

平成24年度から平成25年度にかけては、施設の老朽化、展示の旧態化等に伴い、再整備工事を実施すると共に、新たに導入した「相模原市ネーミングライツ導入方針」に基づいて、「相模川ふれあい科学館アクアリウムさがみはら」の名称で平成26年3月にリニューアルオープンしました。展示アイテムや設備の新設、更新を実施したことで、より相模川の自然や生き物について親しみ、楽しみながら学べる施設となり、リニューアル以降は毎年19万人前後のお客様にご来館頂いています。

小規模な施設ですが、年4回実施している特別企画展や毎月更新する水槽など、常に変化することで飽きさせない工夫をし、いつ来ても驚きや新しい発見がある施設であり続けるようにしています。

日頃よりご支援、ご愛顧頂いている皆様に感謝するとともに、これからも多くの方に愛される施設を目指して活動していきたいと思っております。



Contents

開館30周年をむかえて	3
開館30周年記念イベント	4
他団体連携	5
地域連携	8
特別企画展	
◇進化のふしぎ	10
◇ふれあい夏まつり	12
◇はっけん!!秋の生き物	14
◇これ・なんだ?	16
ふれあいトピックス	18
ものづくりワークショップ	22
イベント	23
指定管理者紹介ページ	23



開会式



新江ノ島水族館との
コラボレーションイベント

スペシャルタッチング
水槽&クラゲ水槽

新江ノ島水族館飼育スタッフが生き物の触り方や解説を行いながら、トラザメ、オオグソクムシのタッチングや、アカクラゲの展示を行いました。



スペシャルものづくり
ワークショップ

新江ノ島水族館なぎさの体験学習館のスタッフと「キャンドル(海)・(山)づくり」、「貝殻ストラップづくり」の3種類のワークショップを実施しました。



開館30周年
記念イベント

平成29年11月に開館30周年を迎え、その節目を市民の方々と祝うために11月18日(土)に「相模川ふれあい科学館アクアリウムさがみはら 開館30周年記念イベント」を実施しました。



ミニコンサート

相模原を中心に活動するGATOSさんによる演奏を実施しました。

記念品

当館30周年記念ロゴが入ったクリアファイルを入館者へプレゼントしました。



ポニーの乗馬体験

麻溝公園ふれあい動物広場によるポニー乗馬体験を実施しました。



イルミネーション点灯式

一般社団法人 相模原市観光協会 代表理事 加藤 明

相模原市観光協会と相模川ふれあい科学館とのコラボレーションで行っている「アクアリウム相模原イルミネーション」。リニューアルオープン後の平成26年から始まったこの事業は、平成29年で4回目を迎えることになりました。平成29年11月は開館30周年を迎える中、記念イベントを実施、「スペシャルタッチング水槽」では、オオグソクムシやトラザメなど海の生き物に触れあい、また「スペシャルワークショップ」として、山や海のパネルを用いたキャンドル・貝殻ストラップづくりや、屋外ではポニー乗馬体験を行いました。当日は、雨の予

報でポニー乗馬の開催が危ぶまれましたが、なんとか無事に開催することができました。夜の点灯式では、年々勢いを増す花火の打ち上げを合図にイルミネーションが灯り、今年もまた田名の地に幻想的なイルミネーションが彩ることになりました。ミニコンサートや施設への無料入館も実施され、1月中旬までイルミネーションの灯が続きました。水面に写る「逆さイルミネーション」も必見で、来場者を喜ばせております。



科学館まつり



水郷田名観光協会

当館の屋外広場では年間を通じてお子様が楽しめる「科学館まつり」を実施しております。水郷田名観光協会様にご協力頂き模擬店も出店しました。

他団体・他機関との連携

ミニ企画展示「もっと知りたい相模の自然」 波多野 順



平成29年度のミニ企画展示コーナーでは、開館30周年を記念して「もっと知りたい相模の自然」と題して、常設展示だけでは伝えきれない生き物やその現状についてご紹介しました。

また企画するにあたり、調査や研究・保全に関わる外部機関との連携を通して、より専門的で最新の情報をお届けすることも念頭に、各施設に展示のご協力を頂きました。

本企画を通して、私自身も知らなかったような相模川周辺の自然の豊かさや特徴を知り、減りゆく自然環境や現状なども改めて感じることが出来ました。私たちが考えるより速い速度で変化してしまっている自然環境や、情報が溢れる現在の中で、各機関が持つ詳細なデータや、最新の情報などを正しく且つ分かりやすくお伝えすることも、当館が担う大切な役割だと考えています。

第1回企画 「小さなエビの大きな脅威」

共同機関：神奈川県水産技術センター内水面試験場
2017.4/18 ~ 7/9

展示
生物

在来種として、ヌカエビ、ミゾレヌマエビ、スジエビ、ミナミテナガエビ

外来種として、カワリヌマエビ属の仲間、スジエビに似た仲間



現在、相模川やその周辺では外来の淡水性エビが増えており、在来の淡水性エビの減少が懸念されています。そこで、相模川における淡水性エビの現状を生体展示(在来種4種と外来種2種)と解説を通してご紹介しました。



第2回企画 「相模川にすむ虫たち」

共同機関：東海大学 教養学部 北野研究室
2017.7/11 ~ 10/1

展示
生物

クロサワツブミズムシ、ツマキレオナガミズマシ、キベリマメゲンゴロウ、ナベブタムシ、イトアメンボ



川には虫の仲間も数多く棲んでおり、姿かたちや棲む場所、暮らし方は様々で、面白い生態を持つものが多いです。今回は、その中でも相模川とその周辺の水辺に暮らしている珍しい虫を紹介しました。中には全国的にも珍しい虫も展示紹介しました。また実際の展示制作には学生の方にも手伝って頂きました。

第3回企画 「絶滅危惧植物 カワラノギク」

共同機関：光明学園相模原高等学校 理科学研究部
2017.10/3 ~ 2018/1.14

展示
生物

カワラノギク

相模川の河原には「カワラノギク」という絶滅に瀕している植物が生育しています。このカワラノギクは、人の手によって保全しなければ絶滅してしまう現状にあります。今回は、解説文や標本などによりその生態や現状などをご紹介しました。また秋の開花時期には、期間限定で花の咲いたカワラノギクを展示させて頂きました。



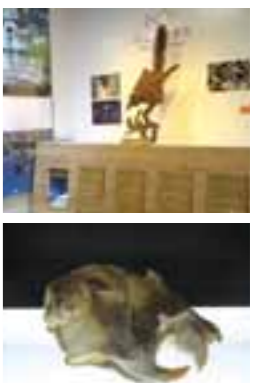
第4回企画 「空飛ぶ哺乳類！ ムササビ」

共同機関：津久井湖城山公園、相模原市博物館
2018.1/16 ~ 4月上旬

展示
生物

ムササビ(標本)

相模の森にはリスの仲間であるムササビが棲んでいます。ムササビは、体を持つ膜を広げて滑空をする特徴があります。夜行性のためあまり目にする事が出来ないムササビの生態や体の特徴などを、解説文や標本などを通してご紹介しました。



相模川ふれあい科学館では、生き物の展示や飼育だけではなく、調査・研究などを通して、自然環境の把握や生態解明、飼育技術開発などにも取り組んでいます。また本年度より、公益社団法人日本動物園水族館協会にも加盟致しました。

【調査】

- 西丹沢溪流魚調査 2017.10/10 (神奈川県水産技術センター内水面試験場調査協力)
- カヤネズミ生息調査 2017.11/6、11/13 (宮ヶ瀬ダムミーヤ館調査同行)
- ホトケドジョウ生息調査 2017.12/9 (神奈川県水産技術センター内水面試験場調査協力)



調査・発表

【研究発表】

※○は発表者

- 淡水魚保全シンポジウム(ポスター発表) 2017.1/19
 - 発表 「相模川ふれあい科学館における
 - 演題 ミヤコタナゴの展示と飼育」
 - 発表者：○波多野順・亀ヶ谷千尋・竹本淳史・中尾智行・黒川恵美・坂野浩一
- 日本動物園水族館協会
 - 第62回水族館技術者研究会(口頭発表) 2017.10/30 ~ 31
 - 発表 「ミヤコタナゴにおける
 - 演題 人工産卵床を用いた採卵方法」
 - 発表者 ○波多野順・亀ヶ谷千尋・竹本淳史・中尾智行・黒川恵美・坂野浩一
- 日本鯨類研究協議会 第1回水族館研究会(ポスター発表) 2018.2/27
 - 発表 「ふれあい水槽
 - 演題 [おさかなトレーナーになろう]の紹介」
 - 発表者 ○波多野順・亀ヶ谷千尋・竹本淳史・中尾智行・黒川恵美・坂野浩一
- 【その他】ミヤコタナゴ保護育成検討委員会 参加

連携

近隣 幼稚園・保育園・
小学校との取り組み

稚鮎の放流



田名幼稚園(学校法人宗祐寺学園 田名幼稚園)、友愛保育園(社会福祉法人 友愛保育園)の園児たちと相模川にて「稚鮎の放流」(5/29)を行いました。「大きくなってね」と声をかけながら稚鮎を川に放流しました。
※稚鮎は神奈川県内水面漁業振興会様より提供して頂きました。

花苗の植え付け

友愛保育園の園児たちと当館の敷地内にある、さかなの形をした花壇に6月にはニチニチソウ、サルビア、11月にはヴィオラ、アリッサムを植えました。花の名前を覚えながら一生懸命苗を植えました。



田んぼ

田名幼稚園の園児たちと屋外にあるふれあい田んぼにて「田植え」(6/5)、「稲刈り・稲架がけ」(11/2)を行いました。植えた小さな苗が自分たちの背丈と同じくらいになっていたことに驚いていました。



友愛保育園の園児たちと屋外にあるふれあい田んぼにて「田植え」(6/1)、「稲刈り・稲架がけ」(10/26)、「脱穀・風選」(11/16)を行いました。稲刈りの際には太くなった茎を刈るのに苦労しました。



相模川フィールド学習

4/25,5/22,6/26,11/9,11/24,12/8,2/28,3/1,3/2

相模原市立田名小学校3学年の生徒たちと、1年を通じて相模川について学習を行いました。実際に相模川や当館に足を運び、川の特徴や環境、生息する動植物など、自分が興味を持ったテーマについて調べました。調べた内容は各班でまとめ、発表も行いました。



麻溝公園ふれあい動物広場 (公益財団法人ハーモニセンター)

ふれあい動物広場で夏に実施された「水の生き物展」に生き物の貸し出しをしました(7/19～8/31)。また、当館開館30周年記念イベントの一環として当館屋外広場にて「ポニー乗馬体験」を実施して頂きました(11/18)。



いきもの観察会

県立津久井湖城山公園にて「いきもの観察会」を実施しました(9/10)。城山公園の職員(公益財団法人神奈川県公園協会)にもご協力頂き、園内を歩きながら、山の動植物を観察しました。道中、ヘビの抜け殻や、モグラ塚、様々な動植物に出会えました。また、外来種のムネアカハラビロカマキリが見つかり、参観者は特徴などの解説を熱心に聴いていました。



近隣施設との取り組み

春季特別企画展

進化のふしぎ

～なんでそうなった？～



企画者
コメント
Comment

展示飼育部
亀ヶ谷千尋



生き物の飼育をしていると“なんて不思議な生き物なのだろう”“なんでこんな形になったのだろう”と思うことがよくあります。「事実は小説より奇なり」といいますが、地球上に誕生した生き物たちの中には、物語に登場する空想上の生き物より奇妙で不思議なものがたくさんいます。そのような生き物たちの不思議さを“進化”という視点から伝えたい！という思いでこの展示を企画しました。

主役はもちろん生き物たちですが、目玉がもう1つあります。それは“絶滅してしまった生き物”たちです。神奈川県立生命の星・地球博物館のご協力によって、アンモナイトや三葉虫、絶滅したシーラカンスの仲間などの化石を展示することができました。1人では持ち上げることのできないほど巨大なアンモナイトの化石などを実際に見ると、太古の海にはこのような生き物がいたのか、と感嘆してしまいます。

そして、化石の展示のまわりには生命誕生から現在にいたるまでの“進化すごろく”なるものを作ってみました。多くの方が挑戦して下さったのですが、ゴールに到着できた方はほとんどいなかったのではないかと思います。というのも、このすごろくにはちょっといじわるな仕掛けがあるからです。それは、「〇〇によって絶滅～振り出しに戻る」というコマがたくさんあること。でも、これはただのいじわるではありません。地球上に生命が現れてから現在にいたるまで、誕生した生き物のなんと90%以上が絶滅しています。今、私たちが存在するのは奇跡のようなものです。このすごろくでは、進化の過程で生まれた生き物たちが現在まで生き残ること、その難しさを少しでも感じてもらえたらと思って作ったのですが…、果たして気づいて頂けた人はいるでしょうか？



生命が誕生したのはおよそ38億年前

とても小さく、単純な形をしていた最初の生命は、様々な進化を遂げて現在の地球に多種多様な生き物たちをもたらしました。奇妙に思えるほど体を特殊な形に変化させたもの、逆にもともとあった体の一部をなくしてしまったもの、はたまたはるか昔から姿形を変えていないもの…一見すると不思議に思える姿でも、そこには生き残るために生き物が歩んだ進化の道があります。進化のふしぎ展では、「なんでそうなったの？」とってしまうような進化をした生き物たちを、その不思議な生態とともにご紹介しました。



夏季特別企画展

ふれあい夏まつり

～ふれて感じるいろんなコト～



ふれて命の大切さを感じる。

生物を知ることにおいて“ふれあい”はとても重要です。さわることによって生物の暖かさや柔らかさ、またエサやりを通して何を食べているのかを、知識だけではなく体験として得ることができます。人間と生物を取り巻く環境は時代ごとに変化し、近年では川や野原で生物を捕まえることや、家で飼うことが少なくなり、ふれあいの仕方を知らない子供が増えています。ふれあい夏まつりでは、さまざまなふれあい体験を通じて命の大切さを感じて頂けたのではないかと思います。



企画者
コメント
Comment

展示飼育部
竹本 淳史

2017年春のこと

私「今年は開館30周年かあ～、夏の企画展はもうお祭りですね～」

上司「そうだね！ということは今年の夏は…」

一同「ふれあい夏まつりだ！」

と、このようなざっくりとした流れでこの企画展は生まれました。

館内イベントでもふれあい体験は人気があるので、さらに充実させていこうと方向性は明快でしたが、実際は問題が次から次へと出てきます。ふれあい体験では生物に負担がかかりすぎないのか？エサやり体験は安定して食べてくれるのか？いつ来ても自由にさわられるコーナーはできないのか？ひとつひとつ課題をクリアしながら、カピバラやアルダブラゾウガメなど私自身初めて飼育する生物も展示できることになりました。特に人気だったカピバラの兄妹は、まだ子供でとてもかわいらしい姿を見せてくれました。

ふれあい体験を充実させたことで、スタッフだけでは手が足りず、アルバイトさんの助けも借りてなんとか会期を終えることができました。

間違いなく過去一番大変でしたが、またいつかやりたいと思える企画展となりました。



【ふれあった生き物たち】

- カピバラ
- アルダブラゾウガメ
- ケヅメリクガメ
- ヒョウモントカゲモドキ
- インドホシガメ
- ボールニシキヘビ
- アマミシリケンイモリ
- シラヒゲウニ
- マナマコ
- オニヒメブンブク
- オオグソクムシ
- ヘラクレスオオカブト
- ギラファノコギリクワガタ
- カブトムシ
- カイコ
- 川虫の仲間たち
- メンドコ他相模湾の深海生物（冷凍標本）
- インドゾウの糞（乾燥標本）など
- カワテブクロ





秋季特別企画展

はっけん！ 秋の生き物 ～落ち葉の冒険～



生き物を通して感じる“秋”

みなさんはどのような時に秋を感じますか？

朝晩が涼しくなって、毛布が恋しくなったとき？ スーパーでサンマを見かけたとき？

空にうろこ雲を見つけたとき？

私たちは知らず知らずのうちに、様々な秋に触れています。

そして、生き物たちにとって秋という季節は、寒く厳しい冬を迎えるための準備の季節です。

時に姿形を変化させて、秋にしか見ることのできない命の輝きを私たちに見せてくれます。

この企画展では皆様に、秋の新しい魅力や身近な自然の面白さをお伝えしたいと思い、

生き物を通して秋を知り、秋を感じていただくべく、

落ち葉の妖精アキヤンと一緒にいろいろな秋の生き物をご紹介します！



企画者
コメント
Comment

展示飼育部
中尾 智行

この企画展で私がこだわったのは、私たちの身近に棲む「日本の生き物」を展示することです。これらの生き物は、あまりにも身近すぎて気付かなかつたり、地味で注目されない生き物たちが多く、本物をじっくり観察することは少ないと思います。

例えば、タヌキ。誰もが名前を知っていて、ふれあい科学館周辺にも生息している非常に身近な野生動物ですが、皆さんは写真も何も見ずにタヌキの絵を描けますか？色や模様など知っているようで、正確にはよく知らないのではないのでしょうか。尻尾も縞模様を描いてしまいがちだと思います。(縞模様の尻尾はアライグマです！タヌキの尻尾に縞模様はありません！)また、タヌキと言えばぶくっと丸く太ったイメージが強いかもしれませんが、実際は割と細身で、顔も精悍に見えます。



このように、本物を実際にじっくりと観察してみると、私たちの想像とは違う、新しい一面が見えてくると思います。

そして、生き物たちの新しい一面に気が付き、深く知れば知るほど、その生き物からにじみ出るような美しさや、魅力に、心を魅了されてゆくのです。

私が企画をするにあたって、幼少期、秋によく触れ合った生き物たちのことを思い出し、そんな中でも選りすぐりの、生き物たちを展示したつもりです。

見に来ていただいたお客様が、「秋にはこんな生き物がいるんだ」とか、「こんな姿だったんだ」など様々な捉え方で、新しい秋の発見をし、身近な生き物への関心を深めて頂けていたらとてもうれしく思います。



Topics トピックス

関東地方の水族館ではここだけ！ イタセンパラの展示！

企画展開催期間限定で国の天然記念物「イタセンパラ」の展示をおこないました。イタセンパラは秋に繁殖期をむかえ、綺麗な婚姻色になる魚です。濃尾平野、富山平野北西部、琵琶湖淀川水系の3カ所だけに分布する日本固有種で、環境省レッドリスト絶滅危惧IA類にも指定されている極めて貴重な魚です。今回は大阪府立環境農林水産総合研究所様のご協力により展示が実現しました。



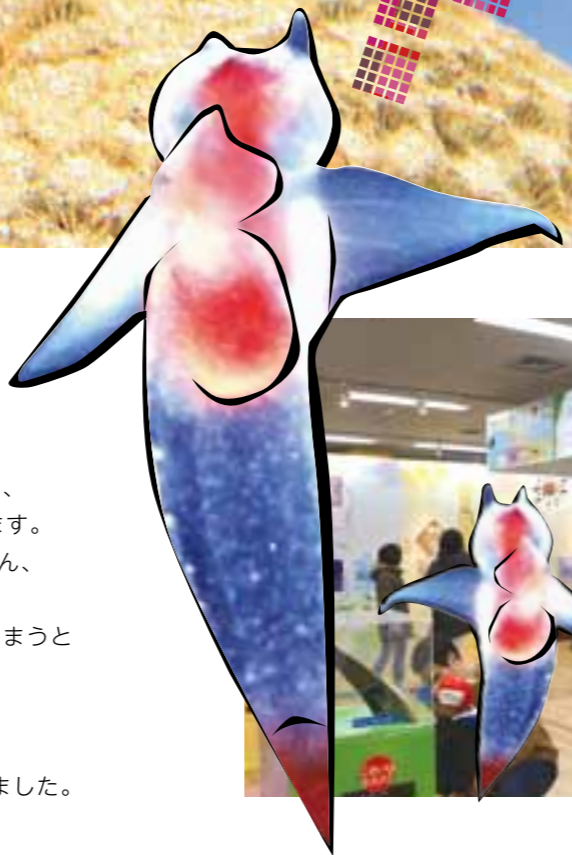
特展のナビゲーター 落ち葉の妖精「アキヤン」

この企画展では落ち葉の妖精「アキヤン」と一緒に、野山、川、海をめぐって、秋を発見していきましょう。



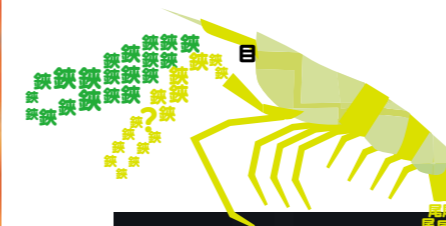
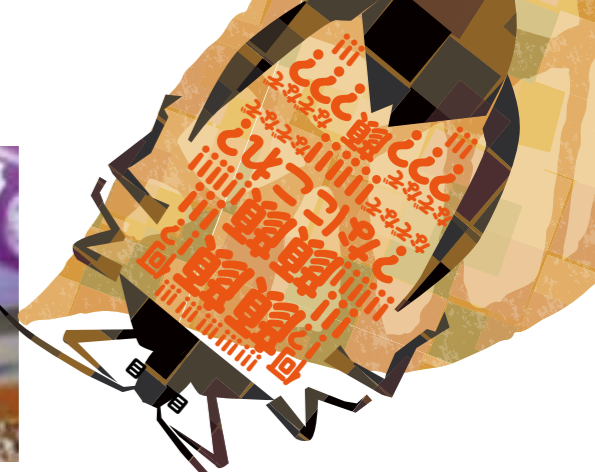


冬季特別企画展
これ・なんだ？
～「なんだ？」がいっぱい～



「なんじゃこりゃ～」が合言葉

皆さんは日々の生活の中で「これ・なんだ？」と思う瞬間はありませんか？
知らないことは怖かったり不安だったりしますが、それが一体何なのか分かったら、「へー！ そうなんだ！」と驚いて、さっきまでの不安は好奇心に変わってしまいます。生き物たちはとても多様な姿をしています。「はじめまして！」の生き物はもちろん、「君のことは知っているぞ！」な生き物でも、たくさんの新しい発見があります。そして、そんな新しい一面を見せてくれた生き物のことがもっと好きになってしまおうと同時に、まるで「最初から知ってたよ～ん！」という雰囲気、誰かについて自慢げに話したくなってしまうんですね。この企画展では、生き物たちの「これ・なんだ？」を集め、「見て」「聞いて」「触って」生き物たちをさらに深く知ることの面白さをお伝えしました。



展示飼育部
黒川 恵美

企画者
コメント
Comment

私は当館で働き始めてから約1年半経ちますが、毎日が「これ・なんだ？」の連続です。生き物を観察しているとき、先輩たちの会話で登場する単語、飼育室からふと聞こえてくる音。今回はそんな生き物の「これ・なんだ？」をクイズ形式の展示でご紹介しました。例えば、クリオネは何の仲間？これは誰の鳴き声？海底に現れたミステリーサークル？などなど。答えが分からないように主役である生き物の水槽をシートで隠してしまうという斬新な方法で展示を行いましたが、先に回答を見てしまったり、解説を読んでもらえず「？」のまま次の展示に行ってしまう…。なかなか思うようにいかず、展示の難しさを改めて感じました。ですが、少しずつ改善を重ねていくうちに、クイズを出し合っている姿や、お客様からたくさんの「へー！ そうなんだ！」を聞くことができました。生き物たちの新たな一面をたくさん知っていただきとても嬉しく思います。



ふれあい
トピックス

マンスリー水槽

1 おせちの主演



おせちの主演になるイセエビと、赤と白のお正月カラーをしたアカマツカサとアヤマエビスを展示しました。初めてマンスリー水槽を企画から全て担当しました。失敗ばかりでしたが、その分成長しようと思った思い入れのある水槽です。

2 Happy Valentine's Day



ハート型に見えるカラフルな魚を展示して、ハートがいっぱいの水槽を作りました。

3 春の訪れ



菜の花畑を舞うチョウをイメージして、菜の花には黄色のゴールデンハニードワーフグラミーを、チョウには成長したオスの尾鰭がアゲハチョウのような美しい形をするコンゴテトラを展示しました。

4 サクラダイとお花見



名前に桜とつくサクラダイを展示しました。先輩と一緒に水槽の中に満開の桜の木を作ること成功！桜の花の薄いピンク色とサクラダイの鮮やかな赤色がとても綺麗で、一カ月で展示が終わってしまうのがとても惜しかったです。

5 こいのぼり



5月5日のこどもの日に飾る「こいのぼり」にちなんで、色とりどりのコイを展示しました。皆さんはどの色のコイがお好きでしたか？

6 雨の日の生き物



裏テーマは「カタツムリたちの楽園」。水槽内では身近なカタツムリを、水槽外では沖縄のカタツムリを展示し、かなり豪華な水槽になりました。約40匹のカタツムリを自分で採集しているうちに、カタツムリの魅力に目覚めてしまいました。

7 あおい海、あおい魚



夏と言えば海！海といえば青！…そんな青い海を連想させるような青い魚を展示しました。

8 納涼花火大会



夏と言えばやっぱり花火！花火大会の夜空に輝く火の粉のように美しいテトラの仲間を展示しました。

9 満月の夜



十五夜のお月見ということで「海月」と書くミズクラゲを展示し、水槽外面に自作した障子を貼り付け、和テイストの水槽にしました。障子と照明とクラゲが思わぬハーモニーを作り出し、お客様から大好評でとても嬉しかった記憶があります。正直、裏で何度ガッツポーズをしたかわかりません。

10 ハロウィンといえば？



ハロウィンに欠かせないカボチャのランタンには、元々悪いおばけを追い払う役割がありました。そんなカボチャのランタンに合わせて、おばけを連想させる名前をもつ魚を展示しました。

11 紅葉を見に行こう！



「SLに乗ってのんびりと紅葉を楽しみたい」そんな妄想を水槽にしてみました。水槽内に汽車を走らせ頭上には紅葉を、そして水中には赤がきれいなもみじ和金を展示しました。

12 ホワイトクリスマス



ホワイトクリスマスイメージし、純白のベタを展示しました。クリスマスのロマンチックなムードを再現すべく、私の中に眠る乙女心を爆発させて作りました。企画段階の10月頃から、一人でときめいて胸がキュンキュンしていたことは内緒です。

ふれあい
トピックス

ミニトック水槽

01 的の中心を狙え！テッポウウオ

2016.12.26 ~ 2017.1.29



口から水鉄砲を打ってエサの虫を打ち落とすハンター。当館近くの田名八幡宮では、1月6日に子供が弓矢を打ってその年の豊凶を占うの祭という行事があります。テッポウウオ的の中心を射抜けるかな？

03 きらきら光る カブトクラゲ

2017.3.14 ~ 5.14



虹色に光るクラゲをご存知ですか？カブトクラゲは光を反射することで、櫛板と呼ばれる部分が虹色に輝きます。暗い水槽にライトで光を当てて、クラゲが光る様子を解説しました。

05 カワハギはエサとり名人!?

2017.9.19 ~ 11.12



魚釣りをしていると、釣り針からエサだけ上手についばんで食べてしまう、エサとり名人のカワハギ。とても器用なおちよぼ口は他にもいろいろな技を持っています。このミニトックでは、砂の中の餌を口から吐き出す水を使って、見つける特技を皆様にご覧頂きました。

生き物には秘密の能力がたくさんあります。そんな生き物の能力を実験を交えて紹介しているのがミニトック水槽です。今年度は開館30周年を記念して展装を一新し、生き物を見やすくしたり、モニターを組み込んだりして、より生き物の能力を紹介出来るようになりました。

02 キスする魚のヒミツ

2017.1.31 ~ 3.12



キッシンググラミーはキスをする魚です。ただし、キスをするのはオス同士です…!?そのヒミツは、口を合わせるのにはケンカの時、人間の愛情表現とは正反対の意味があるんですね。

04 海を泳ぐカニ

2017.5.12 ~ 9.17



食材として見かけることの多い「ワタリガニ」は、実はとても上手に泳ぐことのできるカニなのです！このミニトックではワタリガニの一種「タイワンガザミ」が、船のオールのような脚(遊泳脚)を使って悠々と泳ぐ様子を皆様にご覧いただきました。

06 発電する魚 デンキウナギ

2017.11.14 ~ 12.25



生物界で最強の電気を出せるのがデンキウナギです。餌をとる時や、身を守る時に強い電気を出します。発電実験では、デンキウナギの発電にあわせてクリスマスツリーのイルミネーションが光りました。

海の生き物水槽

西年のさかな

【生物種】
スズメダイの仲間
クジャクベラの仲間、トサカガキ

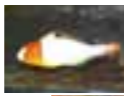
2017年の干支は酉でした。
海の生き物の中にも鳥の名前が
つくものが多いです。カラフルなクジャク
ベラの仲間など、その一部を紹介しました。
期 間：2016.12/20～2017.3/12



魚の色と模様

【生物種】
イロブダイ、シボリキンチャクフグ、
チョウチョウウオの仲間、
ハダカハオコゼ、マンジュウイシモチ

魚たちの様々な体の色や模様には、
それぞれが生き残るために身につけた大切な
理由が込められています。
期 間：5/16～7/23



ともに生きる生き物たち

【生物種】
ニシキテッポウエビ
ギンガハゼ
ハタタテハゼ

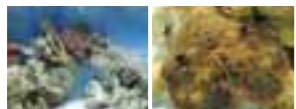
厳しい自然界を、種類は違えど協力し合いな
がら生き抜いている生き物をご紹介します。
期 間：5/16～7/23



にいていない!? 親と子

【生物種】
セミエビ
ゾウリエビ

ちょっと変わった形をしたセミエビの仲間
は、子供(幼生)の姿もまたちょっと変わっ
ています。
期 間：7/27～10/15



さがしてみよう!!

【生物種】
ハオコゼ
サツマカサゴ
ナンヨウツツバメ
ヘコアユ、マツダイ

海の中には、見た目だけでなく動き方まで
海藻や落ち葉にそっくりな魚がいるんです!
期 間：10/17～12/25



海の中のイヌ!?

【生物種】
イヌザメ

2018年の干支“戌(いぬ)”にちなんで、
おとなしいイヌザメの幼魚を展示しました。
期 間：3/28～6/25



小川の実験観察テーブル

「しっているようで知らない? メダカ」

川にいるメダカは何色?
オスとメスの違いは?
…あなたは分かりますか?
生物種：ミナミメダカ、ヒメダカ
期 間：3/28～6/25



「アマガエルをさがせ!」

アマガエルといえば緑色! …ではないのです。
アマガエルの体の色について実験しました。
生物種：ニホンアマガエル
期 間：6/27～10/15



「イモリ? ヤモリ? どこがちがう?」

“イモリとヤモリ”よく似た名前ですが、全く違う生き物なのです。
生物種：アカハライモリ、ニホンヤモリ
期 間：10/23～1/14



「ウロコってなあに?」

私たちにではなくて魚にはある“ウロコ”、
その役割について解説しました。
生物種：オイカワ、ドジョウ、ギバチ
期 間：1/16～3/31



【30周年記念事業】水辺の生き物水槽

開館30周年記念事業として、「水生昆虫水槽」から「水辺の生き物
水槽」へ展示更新しました。水生昆虫だけでなく、幅広い水辺の
生き物を展示する事が出来るようになりました。

「川」は水の中だけじゃない! 新コーナー 「水辺の生き物水槽」

“川”というと、どうしても水の中ばかりが目されがちですが、
川はその“まわり”にも多様な環境をもたらし、多くの生き物を育
みます。そのような“川のまわり”にも興味を持って頂けたらと思
い、“水辺の生き物水槽”というコーナーを新しく設けました。泳
ぎの上手なアオダイショウから“カヤ原”で
暮らすカヤネズミまで、“水の中”とはちよ
つと違う、“水辺”で暮らす生き物たちを展示し
ています。

生物種：タガメ、ゲンゴロウ、ミズカマキリ
ニホンカナヘビ、ヒガシニホントカゲ、
ヒバカリ、アオダイショウ、カヤネズミ
開始時期：2016.1/1～



「タガメの孵化」



水生昆虫の代表ともいえるタガメは、ひと昔前
までは身近な昆虫でしたが、いまや絶滅が危惧
されるほど数が減ってしまいました。そんなタ
ガメの幼虫はどんな姿をしているか知ってい
ますか? 孵化したてはシマシマ、脱皮したては透
き通るような黄緑色・なかなか見る機会のない
タガメの幼虫を期間限定で展示しました。
期 間：10/24～11/16

「白いニホンアマガエル」

昨年、当館付近の田んぼで見つかったアル
ピノの白いオタマジャクシは、順調にカエ
ルへ成長し、満を持して登場しました! お
客様からの反響も非常に大きく、時の人な
らぬ「時のカエル」となりました。



ふれあい 田んぼ探検隊

展示飼育部 竹本淳史

相模川ふれあい科学館には、ふれあい田んぼという棚田があり
ます。一般公募で選ばれた隊員により結成された“ふれあい
田んぼ探検隊”では、田植えから稲刈りそして新米を頂く収穫祭
までを体験しました。初めての隊長という役割でしたが、振り
返ってみればあっという間の一年でした。

観察会



8月19日(土)曇り。田植えをしてから3か月がたちました。
はじめは20cm程だった苗の背丈も1mを超えるまでに成長
しました。さらに、一部では稲の花も見ることができました。
白くて小さな稲の花は普段見る機会が無いものですが、とて
もかわいらしい花だと思えます。

脱穀・風選



10月15日(日)雨。稲刈りを終えて早くご飯が食べたいけれ
ど、まだやらないといけないことがあります。脱穀では干し
た稲から籾を取り、風選で風の力を使って良い籾と悪い籾を
選別しました。昔ながらの人力の機械を使って作業しました。
当日はあいにくの雨でしたが、隊員みんなで力を合わせて
13kgの籾を収穫することができました。

田植え



5月26日(土)晴れ。探検隊の初めての活動は田植えでした。
田んぼって泥がやわらかくて、水が冷たくて、最初は少
し気持ち悪いけど慣れてくると気持ちよくなってくるんです
よね。隊員たちも最初はぎこちない動きでしたが、どろんこ
になりながらも一生懸命苗を植えてくれました。

稲刈り・稲架がけ



9月24日(日)晴れ。田植えをしてから約120日、いよいよ
稲刈りの日がやってきました。重そうに垂れる稲穂には、隊
員たちの気持ちがたくさん詰まった籾がいっぱいです。「こ
こは自分が植えた稲だから自分が刈るんだ!」と、植えた場所
を覚えてくれていた隊員がいたのはとてもうれしかったです。
そして、刈った稲は天日で干します。お日様の光をたく
さん浴びて、おいしいお米になるんです。

収穫祭

10月29日(日)雨。いよいよ収穫祭の日がやってきました。一年か
けて育てたお米をはやく食べたいところですが、その前にもみすり
と精米を体験しました。野球のボールやすりばちなどを使って、い
ろいろ試しながらがんばりました。いつもあたり前に食べている白
いお米になるまでには、たくさんの手間がかかっているんですね。
そして、がんばった後には炊き立ての新米でつくったおにぎりをい
ただきました。探検隊が育てた稲は、とってもおいしいお米になり
ました。





毎日、絶賛開催中！ ものづくり ワークショップ

ワークショップを担当して3年目。毎回皆様楽しんでいただけるよう、試行錯誤を繰り返し企画してきました。振り返ってみるとなかなかの数です。2017年も沢山の素敵な作品が生まれていました。作っている時の皆様の笑顔を思い出しながら、これからも喜んでいただけるような様々なワークショップを企画していきたいと思っております。小さなお子様から大人の方までどなたでもご参加いただけますので、是非多目的室2を覗いてみてくださいね！ご参加お待ちしております。

【実施プログラム】

プログラム名	実施期間	参加費	プログラム名	実施期間	参加費
空を泳げ！いきもの風づくり	冬休み～1月15日	有料	パタパタうちわ	6月17日～7月9日	有料
おきあがりこぼし	1月10日～2月17日	無料	マイ・ボトルオーシャン	夏休み～9月3日	有料
水辺のキーホルダー	1月21日～3月12日	有料	おさかなハット	9月1日～11月2日	無料
トントンずもう	2月21日～3月24日	無料	こねこねづくりおさかなせけん	9月9日～10月29日	有料
たまごでフィッシュ	春休み～4月23日	有料	ストーンアート	11月の土日祝日	有料
ペンペン！こいのぼり	4月の平日	無料	デンキウナギのくるくるツリー	11月7日～12月22日	無料
いきものバッグ	4月29日～5月28日	有料	スペシャルワークショップ！	11月18、19日	有料
キラキラ☆カード	5月9日～7月14日	無料	スノードームすいぞくかん	12月2日～12月25日	有料

「過去の作品展示」 30周年記念事業

開館30周年を記念して、多目的室2に皆様の思い出の一部でもある過去のワークショップ作品の展示を開始しました！季節に合わせた定番のものを除けば、ほとんどのワークショップはその時限りの企画です。「これ作った事ないな」「あれもう一度作りたい」そんな皆様の声を拾うべく、展示に合わせ、夏にはワークショップ単独のアンケートを実施しました。アンケートの結果から、冬には1番リクエストの多かったスノードームを開催しています。

「新江ノ島水族館とのコラボレーション」 30周年記念事業

開館30周年イベントの一環として11月には新江ノ島水族館なぎさの体験学習館とコラボレーションし、スペシャルワークショップを開催しました。普段はあまり意識する機会がないかもしれませんが、山・川・海はひとつの自然の繋がりであり、相模川と相模湾も同様です。その事から、今回は当館の周りで拾い集めた木の実と新江ノ島水族館の前に広がる相模湾の砂浜で拾い集めた貝殻やビーチグラスを使い、前述の通りアンケートで2番目にリクエストの多かったキャンドル作りを実施しました。

「相模川のともだち」 30周年記念事業

多目的室2に2017年の春から新しいコーナーが出来ました。「相模川のともだち」です。写真家の伊藤洋佑さんが年間を通し相模川の自然を見つめ、カメラのレンズ越しに今まで出会って来たともだち(生き物)を紹介しています。伊藤さんが写真とキャプションの文章を通じて皆様に伝えたい事は一体何なのか、是非その目で確かめてみてください。

【相模川のともだち一覧】

ともだち(生き物)	展示期間
ニホンイタチ	4月
コイとナマズ	5月
カナヘビ	6月
コフキゾウムシ	7月
カマキリとカタツムリ	8月
カワセミ	9月
キタテハ	10月
イカルチドリ	11月
エナガ	12月
ナベツル	1月



イベント

当館ではシーズンを通じて様々なイベントや出張水槽を実施しております。

アユについて見て！食べて！学ぼう！



相模川のシンボルフィッシュである「アユ」をテーマにしたイベントを実施しました。アユの生態について学んだ後は、当館近くにある割烹旅館 旭屋にてアユの串刺し・焼き体験を実施し、参加者全員で食べました。

企業タイアップ

お魚先生のガイドとものづくりワークショップ



あじさいメイツ(公益財団法人 相模原市勤労者福祉サービスセンター)と実施しました(7/26,29)。館内を飼育スタッフの話聞きながら見学し、見学後はガラスのビンに砂や光る石、好きないきものフィギュアをいれて自分だけの水族館を作りました。「夏休みの工作にピッタリ」という感想が多く聞かれました。

出張水槽



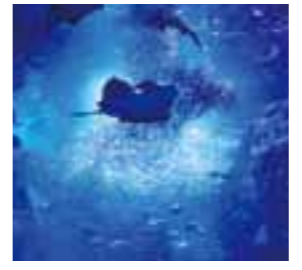
相模原市民桜まつり(4/1)、相模原住宅公園(4/22)、やまとおもしろ科学館(12/3)にて出張水槽を実施しました。施設や特別企画展、ものづくりワークショップのPRを行いました。

運営会社のご紹介

平成26年1月より、相模原市から指定管理業務を受託させていただいております株式会社江ノ島マリン コーポレーションは、下記水族館の運営業務も行っております。

新江ノ島水族館

相模湾に面し、右手に富士山、左手に景勝地・江の島が控える絶好のロケーションに立地する「新江ノ島水族館」は、「わくわくドキドキ冒険水族館」をコンセプトにしています。



世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ

日本や世界の淡水域に生息する生物を紹介している「世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ」は、岐阜県によって整備され環境学習体験を実践する場として親しまれています。



■アクセス Access



**電車
バス
ご利用** JR横浜線 相模原駅南口より 神奈川中央交通バス
「水郷田名」行き 「ふれあい科学館前」下車 徒歩0分

**車を
ご利用** 国道16号線 相模原駅入口 上溝バイパス 上溝 県道54号 相模川
ふれあい科学館
圏央道 相模原愛川IC 国道129号 上溝バイパス 県道54号

■入館料金 (税込)

区分	個人	パスポート	団体 (20名以上)
大人 (高校生以上)	390円	1,170円	310円
小人 (小・中学生)	130円	390円	100円
65歳以上※	190円	570円	150円
幼児 (小学校就学前) 障害者と同伴者1名※ ひとり親家族等※	無料	無料	無料

※については、入館時に証明できる各種証明書のご提示が必要です。
申請時に写真を撮影します。

お得なパスポート

パスポートは3回分の料金です。
ワークショップの割引もあります。



- 開館時間 9:30 ~ 16:30
イベント開催等により営業時間変更の場合あり
- 休館日 月曜日 (月曜日が祝日等の場合は開館)
ただし、春休み・夏休み等の長期休暇期間は毎日開館

【指定管理者】株式会社江ノ島マリンコーポレーション
【第一種動物取扱業の実施に係る掲示】氏名又は名称：相模原市 事業所の名称：相模原市立相模川ふれあい科学館 事業所の所在地：神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1 動物取扱業の種類：展示 動物取扱業の登録番号：生衛 第204-00012号 登録年月日：平成26年3月10日 登録の有効期限の末日：平成31年3月9日 動物取扱責任者の氏名：竹本 淳史



相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

〒252-0246 神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1
TEL.042-762-2110 FAX.042-761-2665
<http://sagamigawa-fureai.com/>

相模川ふれあい科学館

検索